

1. 単元名（活動名） 「エド・イチヤマさんの家族会議の様子をロールプレイしよう」 「日米兵士の『和解』事業を通して、平和構築について考えよう」		
2. 対 象：中学2年生（社会科歴史的分野） 中学3年生（社会科公民的分野）		
3. 教科領域との関連性：社会科（歴史的分野、公民的分野）		
4. 実施時期： 中学2年生2月（第二次世界大戦） 中学3年生2月（国際理解）		5. 総時数： 4時間 2時間
6. 単元（活動）目標： 第二次世界大戦が日系アメリカ人に与えた影響を探究する活動を通して、ナショナリズムのぶつかり合いである戦争が個人の生活に与える影響について、多面的に説明することができる。 日米兵士の「和解」事業に関する記事の比較を通して、平和構築のために自分たちができることについて考え、説明することができる。		7. キーワード 第二次世界大戦 日系アメリカ人 プロパガンダ ナショナリズム 歴史記述 平和構築
<p>主な問い</p> <ul style="list-style-type: none"> 1800年代末から1900年代初めにかけて、多くの日本人がハワイに渡ったのはどうしてだろう。 エドが日本海軍に従軍した次兄を許すことができなかったのは、どうしてだろう。第二次世界大戦中にアメリカでつくられたポスターを見て、考えてみよう。 イチヤマ家の人々が戦後、パンチボウルで再開したときの様子を想像して、それぞれの立場に分かれてロールプレイをしよう。 戦争によってエドが失ったものは何だっただろう。なぜエドは、戦争によって苦しまなければならなかったのだろう。 阿部さんのしていたことと死について報じる日本とアメリカの記事を読み比べよう。 日本とアメリカで、平和をつくるための重要だと思われることは、同じだろうか、異なるだろうか。 平和をつくるために自分にできることはなんだろう。 		
<p>8. 単元について</p> <p>この単元は、以下の2つの授業構成原理にもとづいて構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦中の社会を多面的に解明するために、サバルタンの視点から社会を探究すること。具体的には、日系アメリカ人の視点から、社会を多面的に解明するための問いと授業手法を用いて授業を構成した。 歴史を記述する「まなざし」を解明し、これまでの学習内容を生徒自身が再構成・再評価すること。具体的には、第二次世界大戦中にアメリカで作成されたポスターの分析と、日米兵士の「和解」事業について報じた最近の日米の記事の比較を行う。 <p>単元のまとめの段階では、生徒に以下の点をまとめさせたい。</p> <p>戦争は最大の人権侵害であり、個人の人権が守られていない状況でこそ、戦争が起こりうるということ。</p> <p>平和は個人の英知でもって構築していくものだというアメリカの考え方は、日本の生徒には理解しにくい。だからこそ、平和に対する考え方はさまざまであり、相互尊重が重要であるということ。</p>		
9. 展開計画・展開記録		
次/時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
	活動1・「エドの物語」を読んで、感想やわからないこと、もっと知りたいことを出しあい、探究する問いについて話し合う。	日系アメリカ人に関する生徒の既有知識は充分でない。生徒の学習に対する興味・関心を高めながら、探究する問いにつなげるようにする。

<p>活動2・1800年代末から1900年代初めにかけて、多くの日本人がハワイに渡った理由について話し合う。</p>	<p>「社会を多面的に解明するための問い」を用いる。日本とハワイの経済システム、日系人をめぐるヒト・モノ・カネ・情報の移転システムを形成した背景、日系人をめぐるヒト・モノ・カネ・情報の移転システム、政策、経済格差に着目させる。</p>
<p>活動3・日本海軍に従軍した次兄をエドが許すことができなかった理由について、第二次世界大戦中にアメリカでつくられたポスターを見て話し合う。</p>	<p>「社会を記述する『まなざし』を解明するための授業手法」を用いる。このポスターの中心的なメッセージは何か、このポスターはなぜつくられたのか、描かれていないものは何かについて、ジグソー学習を通して分析し、プロパガンダが個人の生活に与える影響について考えさせる。</p>
<p>活動4・イチヤマ家の人々が戦後、パンチボウルで再開したときの様子を想像して、それぞれの立場に分かれて、ロールプレイをする。</p>	<p>「社会を多面的に解明するための授業手法」を用いる。「エドの物語」を読み、それぞれの立場が第二次世界大戦中にどのような体験をしたのかをまとめる。エドの子どもの役は、ロールプレイで司会をさせ、最後に感じたこと・考えたことを発表させる。</p>
<p>まとめ・活動を振り返り、感想を書く。</p>	<p>戦争についてエドが失ったものは何だったか、なぜ戦争によってエドは苦しまなければならなかったかを考えさせる。</p>
<p>活動1・阿部善治さんのしていたことと死について報じる日本とアメリカの記事を読み比べ、平和をつくるために自分にできることは何か、学んだことをいかしながら阿部さんの子どもに手紙を書く。</p>	<p>「過去を記述するまなざしについて探究するための問い」、「現在の記述を探究するための授業手法」を用いる。旧日本軍兵士の阿部さんについて報じた日米の記事を比較し、平和構築のために重要なことは何か、日本とアメリカの考えを比較する。戦争のもつナショナリズムに目を向けさせながら、人権を守るために個人がすべきことについて考え、阿部さんの子どもに手紙を書かせる。</p>

10. 評価：

のルーブリック：第二次世界大戦が日系アメリカ人に与えた影響を探究する活動を通して、ナショナリズムのぶつかり合いである戦争が個人の生活に与える影響について、多面的に説明することができる。

	A：充分満足できる	B：満足できる	C：支援が必要
<p>・ 1800年代末から1900年代初めにかけて、多くの日本人がハワイに渡ったのはどうしてだろう。</p>	<p>日系移民の理由を、嗜好品などの物産の需要の増加という国際情勢と、開国や明治維新による農民の生活困窮という国内情勢から、具体的な事例を挙げて説明できる。</p>	<p>日系移民の理由を、日米の経済格差や情報の流れの点から、具体的な事例を挙げながら説明できる。</p>	<p>日系移民の理由について予想をたてることはできるが、具体的な資料をもとに検証することができない。</p>
<p>・ エドが日本海軍に従軍した次兄を許すことができなかったのはどうしてだろう。</p>	<p>第二次世界大戦中のポスターを分析し、事実の側面しか伝えていないプロパガンダが、個々人の生活に与える影響を説明できる。</p>	<p>第二次世界大戦中のポスターを分析し、ポスターの中心的なメッセージやポスターのつくられた理由、描かれていないものについて自分の意見を言うことができる。</p>	<p>第二次世界大戦中のポスターについて、〔B〕の項目のうち、2つしか自分の考えを言うことができない。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ イチヤマ家の人々が、戦後パンチボウルで再開したときの様子を想像して、それぞれの立場に分かれてロールプレイをしよう。 	<p>「エドの物語」を読み、自分をこのような状況に追い込んだ全体的な状況を踏まえながら、各自の行動や感情を相手にわかりやすく伝えることができる。</p>	<p>「エドの物語」を読み、それぞれのおかれた状況を踏まえ、第二次世界大戦中の各自の行動や苦しかったこと・願いなどをまとめることができる。</p>	<p>「エドの物語」を読み、それぞれがおかれた状況について説明することができる。</p>
---	--	---	--

のルーブリック：日米兵士の「和解」事業に関する記事の比較を通して、平和構築のために自分たちができることについて考え、説明することができる

	A：充分満足できる	B：満足できる	C：支援が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿部さんのしていたことと死について報じる日本とアメリカの記事を読み比べよう。 	<p>日米の記事を比較し、平和構築に関する日米の考えの相違点を指摘しながら、日本とアメリカが協力しながら平和をつくるために必要な条件について考え、自分の考えを説明することができる。</p>	<p>旧日本軍兵士の阿部さんについて報じた日米の記事を比較し、平和構築のために重要なことは何か、日本とアメリカの考えを比較し、相違点を指摘することができる。</p>	<p>旧日本軍兵士の阿部さんについて報じた日本とアメリカの記事を分析することができる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平和をつくるために自分にできることは何だろうか。学んだことを活かしながら、阿部さんの子どもに手紙を書こう。 	<p>真珠湾攻撃や太平洋戦争の意味を考えながら、平和構築のために個人ができることについて、自分の考えを説明することができる。</p>	<p>戦争のもつナショナリズムを踏まえながら、人権を守るために個人がすべきことについて、自分の考えを説明することができる。</p>	<p>これまでの活動の感想をまとめることができる。</p>

<p>11. 苦勞した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エド・イチヤマさん、阿部善治さんというひとりの人間の経験をととして第二次世界大戦を学習するためには、生徒に科学的社会認識を保障するための手立てが欠かせない。本単元では、「社会を多面的に解明するための問いと授業手法」、「歴史を記述する『まなざし』を解明するための問いと授業手法」を用いた。しかし、自分がどの視点に立って社会をみているのか、を生徒に意識させるための手だては充分とは言えない。 	<p>12. 改善するとしたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の活動2で、多くの日本人がハワイに渡った理由を社会構造の中でとらえることが、本単元の学習を成立させるための条件となる。移民がおかれていた状況を生徒が具体的に理解できる教材の開発が今後の課題である。
--	---

<p>13. 授業づくりのための参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 矢口祐人・森茂岳雄・中山京子『入門 ハワイ・真珠湾の記憶』明石書店、2007、pp.32-33 ・ 朝日新聞 2006年12月8日朝刊38面、2007年4月9日朝刊19面 ・ Rod Ohira A Warrior Rests Remembrance Vol.5, An Arizona Memorial Publication, 2007

<p>14. 学びの軌跡（感想文、作品、ノートなど） （2008年2月 中学校2年生において実践予定。現在のところ未実践です。申し訳ありません）</p>
--

<p>15. 備考（授業者による自由記述）</p>
